

第2期総合戦略策定に向けた検討内容

第1期（H27～H31）の現状

■ 現総合戦略の数値目標とKPI (A:達成 B:未達成であるが進捗あり C:未達成)

政策分野	数値目標	評価
しごとづくり	雇用の場が整っていると感じる市民の割合	A
結婚・出産・子育て	出産や子育てがしやすいと感じる市民の割合	A
まちの活性化	上越市を暮らしやすいと感じる市民の割合	C
UIJターンとまちの拠点性	市内への観光客入込数 今後も上越市に住み続けたいと感じる市民の割合	C C

KPIの評価	しごとづくり	結婚・出産・子育て	まちの活性化	UIJターンとまちの拠点性
A	11件 (46%)	8件 (73%)	5件 (31%)	2件 (100%)
B	6件 (25%)	1件 (9%)	8件 (50%)	0件 (0%)
C	7件 (29%)	2件 (18%)	3件 (19%)	0件 (0%)

しごとづくり、結婚・出産・子育ては、政策効果が発現。

まちの活性化、UIJターンとまちの拠点性は、取組の強化について検討が必要。

基本目標、数値目標、KPIの関連性に課題。次期戦略策定時に検討が必要。

■ アンケートによる現状分析結果

(若者世代・子育て世代の市民アンケート、人口減少に関する市民アンケート)

- ✓ 若者の所得向上に向けた地域企業の成長に資する取組が重要
- ✓ 女性が安定的に収入を得られる環境の構築の施策が重要
- ✓ 結婚相談窓口や出会いの場づくりの取組が求められている
- ✓ 「製造業」への支援施策が重要
- ✓ 「医療・福祉分野」や「教育学習支援分野」等で、結婚後も安心して働ける環境づくりを支援する施策の検討が必要
- ✓ 若者に対する愛着を高める取組や人口減少の状況の周知する取組、活動できる機会創出の取組が必要。
- ✓ 多様な地域における取組推進の観点が必要
- ✓ 魅力的な職場を創出する施策の検討が必要
- ✓ 人口減少社会や身の丈にあったまちづくりの理解を深める取組が必要

若者世代の生活に影響の高い産業の成長促進や、特に女性の結婚後に安心して働ける環境づくり等のしごとに関する施策の強化が必要。
新たな視点として、多様な地域の取組推進や特に若者のまちへの愛着向上、人口減少社会の理解等の地域の活性化や人材育成の施策の検討が必要。

■ 人口の推移 (各年の数値は、H27及びR2の数値を基準に按算出(実績を除く))

	H27	H28	H29	H30	R1	R2
【現総合戦略の目標値】						
社人研※(H25)推計	197,928	196,579	195,230	193,881	192,532	191,184
+出生率1.68の維持						
【実績】H27国勢調査からの推計値	196,987	195,475	193,777	191,835	-	-
()は目標値との差	(▲941)	(▲1,104)	(▲1,453)	(▲2,046)		
【参考】社人研※(H25)推計	197,419	195,950	194,481	193,012	191,543	190,075
【参考】社人研※(H30)推計	196,987	195,468	193,949	192,430	190,911	189,393
【参考】社人研※(H30)推計	196,987	195,537	194,087	192,637	191,187	189,737
+出生率1.68の維持						

人口減少は予想を上回る速度で進行、さらなる取組の強化が必要

国の第2期における新たな視点

- ①地方へのひと・資金の流れを強化する(関係人口、寄附・投資等)
- ②新しい時代の流れを力にする(Society 5.0の実現等)
- ③人材を育て活かす(人材の発掘・育成、高校生の地域愛醸成等)
- ④民間と協働する(民間の主体事業の強化等)
- ⑤誰もが活躍できる地域社会をつくる(女性・外国人等活躍、交流促進によるコミュニティ形成、共助互助のコミュニティ形成等)
- ⑥地域経営の視点で取り組む(多様な雇用機会創出、地域経済牽引企業の成長の促進等)

◆下線部が当市の施策に馴染むと考えられる項目

上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会第1回部会（ワークショップ）

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本方針の策定に向けて、7月12日・16日に3つの部会を開催。しごとづくり部会、結婚・出産・子育て部会、まちの活性化部会の各部会でワークショップを実施し、延べ56団体・82人が参画。

■現行の上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略の振り返り

<主な良かった点、効果があった点>

しごとづくり部会	<ul style="list-style-type: none"> 市内に雇用の場はある。 企業を増やすことができた。 創業支援ネットワークの取組による創業数の増加。 <p>⇒市内の新たな雇用の創出につながった等の意見が出された。</p>
結婚・出産・子育て部会	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援施策の拡充により、子育て家庭の経済的負担の軽減につながった。 出会いの場イベントの参加者が増えている。 人口減が問題であるという認識の人が増えた。 <p>⇒各種の取組が前向きに推進している意見が多数</p>
まちの活性化部会	<ul style="list-style-type: none"> 参加者、主催者、行政が地方創生をテーマに活動を広げることができた。 新しいつながりが生まれ、様々な団体との連携により事業展開ができた。 <p>⇒新しい取組、新しい連携・交流が生まれている意見が多数</p>

<主な反省点、課題>

しごとづくり部会	<ul style="list-style-type: none"> 働く人が不足している。市内企業への定着率の低さ。スキルを持っている人の確保が難しい。 仕事のミスマッチ。 <p>⇒「担い手」不足、高度人材の確保、雇用のミスマッチが課題という意見が出された。</p>
結婚・出産・子育て部会	<ul style="list-style-type: none"> 出会いの場づくりの取組が不十分。 若い女性が帰ってくるのがどんなに重要かを地域の人が理解しているか。 女性の就業割合を高める。女性の雇用の場の確保。 女性に子育ての負担が偏りがちで、それが改善できていない。 <p>⇒雇用の場、子育て負担、Uターン等女性に関する課題や、出会いの場づくりに関する課題の意見が出された。</p>
まちの活性化部会	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少に伴う人手不足。若者の担い手が育たない。 補助金がないと実施できない事業もあり、活動内容が縮小。 <p>⇒担い手（後継者、まちづくりへの参画）や活動資金が足りないこと、稼ぐことが課題という意見が出た。</p>

■第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略で推進する取組の検討

<推進する取組（事業）の視点>

しごとづくり部会	<ul style="list-style-type: none"> 若者が就職を望む情報通信系の企業誘致。 地元でがんばっている企業に対して支援を行う。 製造業の若手の採用・育成を促進。 女性が働きやすい農業環境づくり。 テレワークの業態もあり得る。 農業とIT、自然とITといった業種間の連携が必要。 今後は若い人のニーズに対応できる雇用の場の確保、結婚・出産・子育てがしやすい職場環境づくりに取り組んでいく必要がある。 <p>⇒特化した産業の推進の観点（製造業の発展や情報通信系企業の誘致、地元企業への支援等） ⇒女性の新しい雇用、テレワーク、業種間連携の観点</p>
結婚・出産・子育て部会	<ul style="list-style-type: none"> 出会いの場には、企業間の交流が必要。 婚活が前面に出すぎない「仲間づくり」が重要。 いろいろなメニューで出会いの場を作る。 出産後に女性が仕事を辞めなくて済むような仕組みづくり。 辞めてしまっても再就職ができるような仕組みづくり。 地域で子どもを育てると意識を企業に持ってもらう。 大事なことは、自ら実践すること。 <p>⇒自然な出会いの場を創出する観点 ⇒子育てに関する企業への理解醸成の観点</p>
まちの活性化部会	<ul style="list-style-type: none"> 若者によるSNS等を使った情報拡散が必要。 様々な団体が集まる場づくり、団体同士の自然なつながりの中から連携が生まれるとよい。 「参加」ではなく、「参画」「楽しんで取り組む」という意識を持つことが重要。 中高生の親を巻き込み、親子ともに上越に愛着を持ってもらう取組を行うことが必要。 地域の中だけではなく、外部の意見を取り入れることが大切。 <p>⇒情報発信、域内交流の場づくりの観点 ⇒まちづくりへの参画、中高生やその親へのアプローチの観点</p>
共通テーマ（移住施策、人材育成、若者等活躍）	<ul style="list-style-type: none"> 上越市の良さを子どもたちに伝え、上越市に戻ってきたくなる環境を作る。 若い女性が帰ってきたくなるまち、職場づくりが必要。 若者が集まって話し合う機会（若者会議）をつくる。 団体の活動に、若者に参加してもらえようとする仕組みを考える。 交流人口、関係人口の増加を目指す。 イベントや各種事業への高校生生の活用。 <p>⇒Uターン（特に女性）に焦点をあてる観点 ⇒若者（特に高校生）・転出者とのつながりに関する観点</p>

第2期総合戦略の基本方針

○4つの政策分野

(しごとづくり、結婚・出産・子育て、まちの活性化、UIJターンとまちの拠点性)

○8つの重要視する視点

(自然な出逢い等の場づくり、多様な地域の取組推進、地域への理解・愛着向上、人材育成等)

上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会第2回部会（ワークショップ）

第2期総合戦略の計画期間内で実施する事業を検討するため、8月27日・29日、9月6日に各部会を開催。ワークショップでは、出席者間での意見交換を実施し、延べ42団体、69人が参画。

<他団体との意見交換で感じたこと>

しごとづくり部会	<ul style="list-style-type: none"> ・連携については、いろいろな可能性を感じた。今後も情報交換を希望。 ・情報発信の方法を工夫する。ホームページに掲載するだけではダメ。 ・若者に企業を知ってもらう（市内にどんな企業があるか知らない）。 ・異業種との連携の可能性が大いにあることをあらためて実感。 ・課題（高齢化、人手不足）が同じということは、連携しやすい。 	<p>情報発信に関する課題、連携の可能性と引き続きの情報共有の必要性に関する意見が出された</p>
結婚・出産・子育て部会	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ目標のもと、関係団体が情報を共有し、話し合う機会は大切。 ・妊娠、出産前の準備段階の人にも子育て支援の情報を知ってもらうことは大事ではないか。 ・医療費の補助など、出産・子育てに関する情報をもっと積極的にした方がよい（若い人向けだけでなく、その親の世代に向けても）。 ・企業とのつながり（ワークライフバランス、マタニティ期からの支援）。 	<p>情報発信に関する課題、企業や子育て世代等とのつながりに関する意見が出された</p>
まちの活性化部会	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの団体が特長のある事業の取り組みを行っており、お互いに情報を共有し、連携することで1団体ではできない事業も可能になって行くと感じた。 ・SNSでの発信。発信してもらうようにすることの重要性。 ・SNSなどによる不特定多数とのつながりもいいが、縁ある特定少数との強いつながりづくりの重要性を感じた。同時に地域内交流の重要性も感じた。 	<p>情報発信に関する課題、情報交換や地域内交流による連携の必要性に関する意見が出された</p>

第2期総合戦略計画期間内で実施する事業の検討（事業概要シートの提出）

第2期総合戦略の基本方針



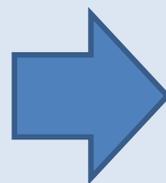
第2期総合戦略計画期間内に
実施する事業

第2期総合戦略 具体的施策の検討

上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会第3回部会（ワークショップ）

第2期総合戦略で掲げる数値目標やKPIを検討するため、10月24日に3部会合同で部会を開催。10のグループに分かれてグループワークを実施し、延べ32団体、55人が参画。

24の具体的施策の基本的な考え方に
対して、どんな取組ができるか、ど
んなことを目標にするか（5年後に目
指す姿等）をグループワークで検討



第2期総合戦略の数値目標、KPIの設
定に活用（24のKPIにグループワー
クの意見を反映）

数値目標、KPIの設定

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）